



PET/CT
検査とは

PET/CT ポジトロン断層撮影
+マルチスライスCTスキャナ
Positron Emission Tomography + Multi Slice Computed Tomography

がん細胞は正常細胞の3~8倍のブドウ糖を消費します。PET検査はこの性質を利用しブドウ糖に似た放射性薬剤 (FDG) を静脈に注射し、その集まり具合をしらべます。

PET/CT検査は、PETとCTが組合わされた最新鋭の診断機械です。PETの画像とCTの画像を重ね合わせることで、がんの存在部位を明確にすることができ、より正確な診断が可能となりました。

3時間で全身のがん検診ができます。

PET/CT
検査のながれ

- 1 検査前4~6時間は絶飲食(水は可)
- 2 検査薬(FDG)を静脈へ注射
- 3 体内に薬剤が広がるまで休憩していただきます
- 4 PET/CTカメラでの撮影(20~30分)
- 5 検査後30分ほど休憩(ガンマ線が減少するまで)
- 6 必要に応じ遅延相の撮影が追加される場合があります



PETは 組織の機能を画像化します。

CTは 組織の形態を画像化します。

PET/CT 高精度な融合画像 正診率を高め、正確な治療に貢献

よりすばやく、安全に、確実に
がん早期発見に対する
最新の回答が**PET/CT**です。
PETとCTスキャナが融合

PET/CT
検査の特徴

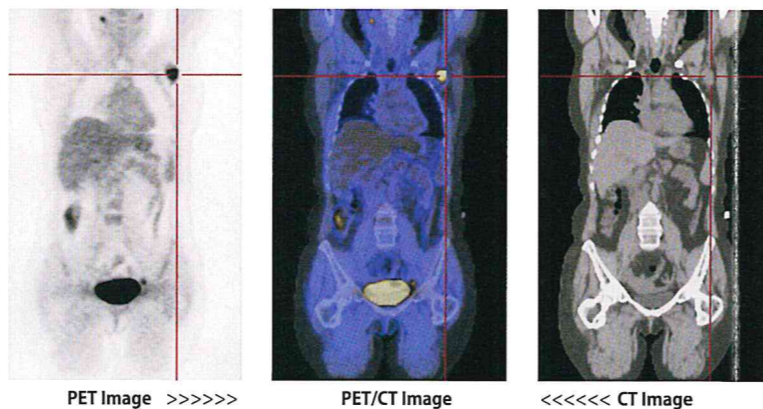
- 一回の撮影でほぼ全身のがんの検索が可能です。1cm以上の小さながんの発見に有効です。
- 検査前の処置は一回の注射のみで、苦痛もなく、寝ているだけの検査です。
- 検査全体の所要時間は約3時間、うち撮影時間は約30分です。
- 放射性薬剤を投与しますが、ブドウ糖に似た薬剤なので、副作用の心配はありません。

PET/CT
検査の画像

PET検査は革新的ながん検査方法ですが、万全ではありませんでした。PETにより得られた画像とCTの画像と重ね合わせることで、がんの存在部位を明確にすることができ、より正確な診断が可能となりました。

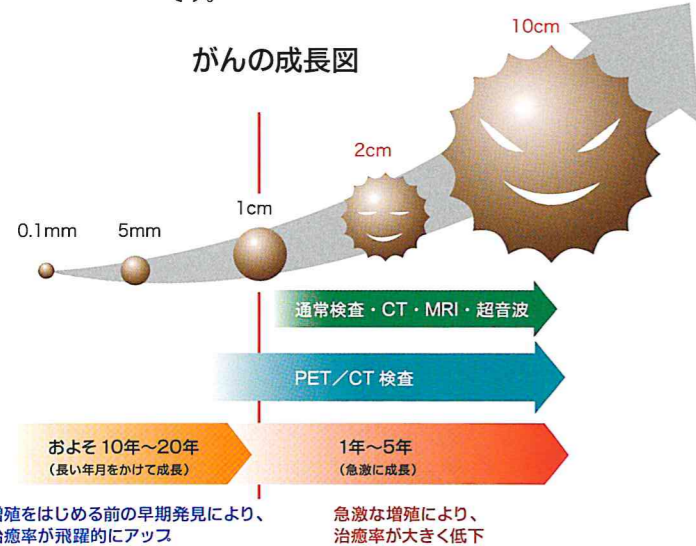
PET/CT
検査の留意点

PET/CT検査が発見される主ながんは、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、すい臓がん、直腸がん、子宮がん、悪性リンパ腫、悪性黒色腫などです。
ただし、PET/CT検査といえども、顕微鏡レベルの小さながんは発見できません。検査の性質上早期の胃がん、泌尿器系がん、肝細胞がんなどは発見しにくく、内視鏡検査や超音波検査との併用が推奨されます。また検査薬は炎症などがん以外の病気にも集まります。このためPET/CTで異常があった場合、さらに別の検査が必要になる場合があります。



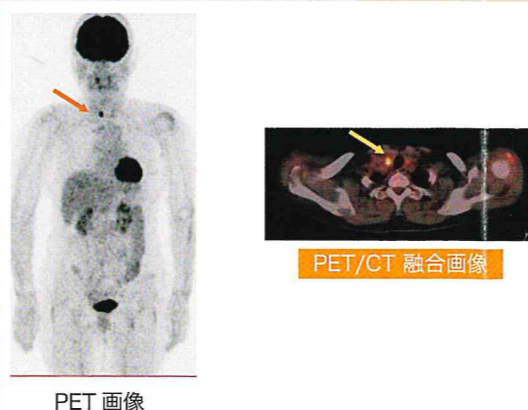
PET/CT
がん細胞の成長

細胞レベルで発生したがん細胞は、時間の経過とともに大きく成長していきます。効果的ながんを治療するためには、第一にできるだけ早い時期に発見して治療を始めること、第二に、がんの成長の状態をできるだけ把握し、最適の治療を施すことが大切です。そのためにPET/CTは非常に有効な検査です。

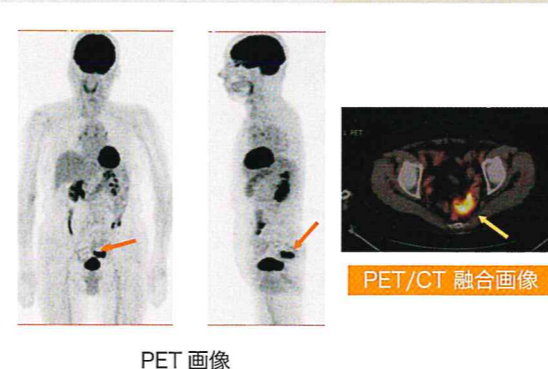


PET/CT
症例集

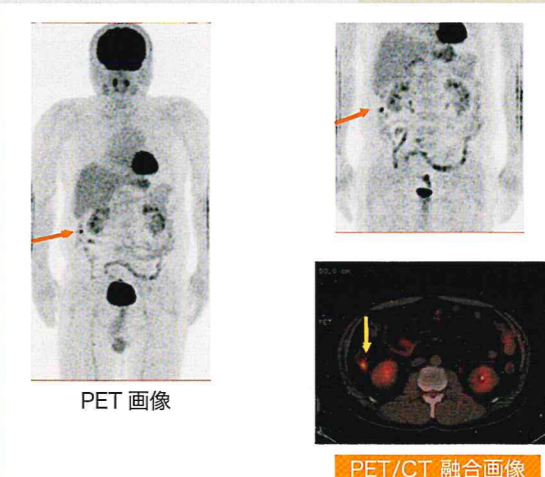
甲状腺癌発見例

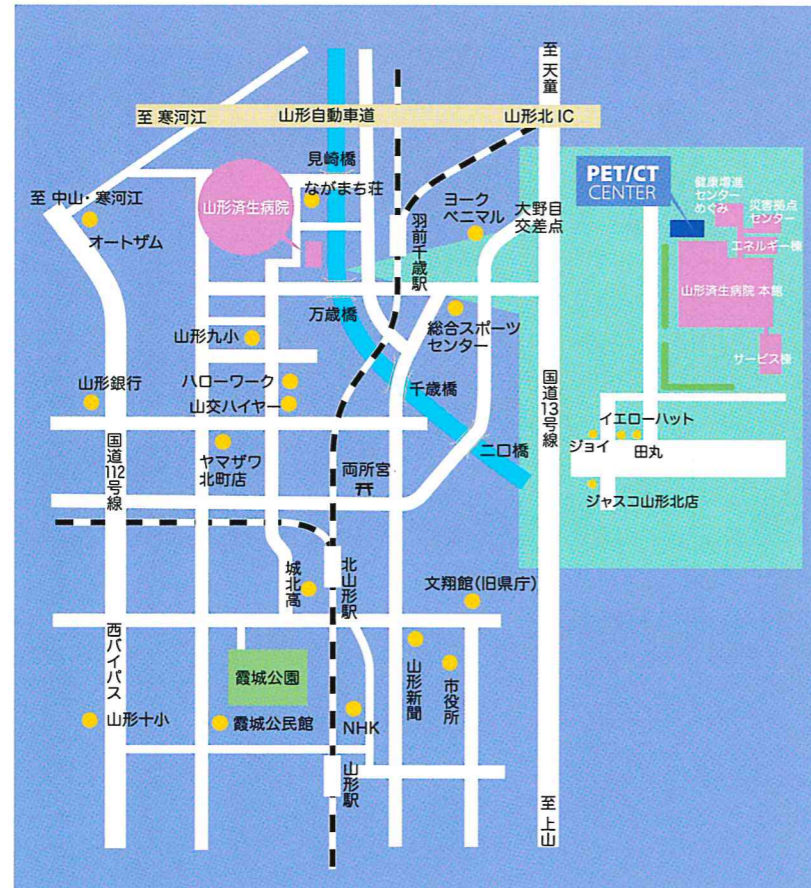





大腸癌発見例



大腸腺腫発見例





-  お車で JR山形駅より15分、国道13号大野目交差点より5分
-  列車で JR羽前千歳駅下車、徒歩10分
-  バスで シャトルバスをご利用ください

PET/CT に関するお問い合わせ、ご予約は

023 682-1112

山形済生病院PET/CTセンター(直通)

E-mail pet-ct@ameria.org



社会福祉法人 恩賜財団 済生会
山形済生病院

〒990-8545 山形市沖町 79番1
 TEL. (023) 682-1111(代) FAX.(023) 682-0123
 URL <http://www.ameria.org>



Yoshihiko Ohshima memorial
PET/CT CENTER
 YAMAGATA SAISEI HOSPITAL

がん早期発見に貢献する最新の回答

